



レオン・フレデリック「祝福を与える人」1889年 59×59cm



レオン・フレデリック「三姉妹」1896年 120.5×95cm



ジャン・デルヴィル「死せるオルフェウス」1893年 82×103cm



フェルナン・クノッフ「ブリュージュにてーブリュージュのたたずまい、愛の湖」1904年 47×101cm



フェルナン・クノッフ「ブリュージュの思い出ーベギン会修道院の入口」1904年 27×43.5cm

象徴派展

2005年 9/9 金 → 10/10 月

19世紀末のヨーロッパでは近代都市や近代技術が発達し、新しい機械や生活様式が人々の上に様々な影響を与えていました。そしてそのような近代生活とそれが内に孕んだ矛盾、更にはキリスト教の終末思想が、デカダンスのような世紀末の不安定な感情を生み出していました。このような時代潮流の中で、物質文明に背を向け、内面の秘められた真実を求めていた芸術家たちがいます。それが象徴派といわれる芸術家たちです。印象派が光に興味を持ち、目に見える現実を描こうとしたのに対し、象徴派の画家たちは、目に見えない内面の奥底の真実を象徴的に描き出そうとしました。彼らの作品は、本質的に近代批判としての側面を持っていましたが、特に統一的な様式を持っていませんでした。ただ多くの作品は、瞑想的、耽美的、幻想的、神秘的などの言葉を当てはめることができる画面上の傾向性を持っていました。

ベルギーの首都ブリュッセルは、フランス語圏であることや、象徴主義運動が本来持っていた国際的な性格から、パリと密接な関係を持ちながら、象徴主義運動の活発な拠点として機能しました。その結果ベルギーでは、独自の神秘的で憂鬱に満ちた優れた作品群が生まれたのです。

本展では、フェルナン・クノッフ、フェリシアン・ロップス、ジャン・デルヴィルなどの近代のベルギーを代表する重要な画家20名、約90点の作品によって、ベルギー象徴派の世界を紹介します。

同時開催「大きな大きな絵画展」9月3日(土)～10月16日(日)

次回展覧会「鬚嘔展」2006年 3月1日(水)～3月30日(木)

交通のご案内

●京福バス/JR福井駅前7番のりばより「県立美術館前」下車。 ●コミュニティバス/福井駅前より「県立美術館前」下車。

●車/福井駅前より約10分、福井北ICより約20分。 ●福井鉄道・えちぜん鉄道/「田原町駅」下車徒歩6分。

※ご来館の際は、できるだけ公共交通機関をご利用下さい。お車の際はアイドリングストップにご協力下さい。

福井県立美術館 〒910-0017 福井市文京3-16-1 TEL: 0776-25-0452 FAX: 077
HP: <http://info.pref.fukui.jp/bunka/bijutukan/bunka1.html>

